

令和6年度 静岡市立静岡看護専門学校 学校関係者評価会議

日時：令和6年 4月 24日（水）

15時30分～16時45分

会場：静岡市立静岡看護専門学校 1階会議室

1. 副校長挨拶及び趣旨説明（副校長）
学校関係者評価の進め方説明
2. 委員及び学校職員・事務局紹介（事務長）
3. 委員長の選出（事務長）
4. 副委員長の指名（委員長）
5. 議題
 - (1) 「自己点検・自己評価 結果」報告
・令和6年度 重点目標について
 - (2) 「自己点検・自己評価 結果」について
不明点など質疑
 - (3) 学校関係者評価について 討議
6. 学校関係者評価の公表について（事務長）
7. その他
今後の予定について（副校長）

令和6年度 静岡市立静岡看護専門学校 学校関係者評価会議 出席者

令和6年4月24日（水） 15:30 ~ 16:45

○ 評価会議委員

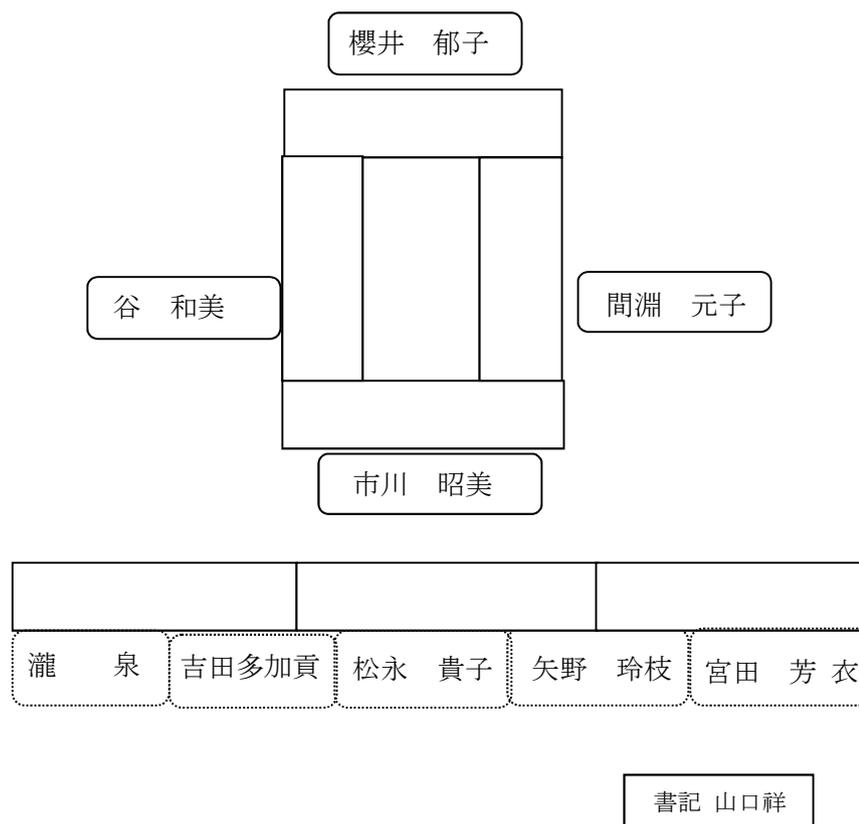
	名 前	所 属
委 員	櫻井 郁子	公益社団法人静岡県看護協会 常務理事
委 員	間淵 元子	医療法人社団宝徳会小鹿病院 看護部長
委 員	谷 和美	静岡市立静岡看護専門学校 後援会会長
委 員	市川 昭美	地方独立行政法人静岡市立静岡病院 副看護部長

○ 学校職員・事務局

	名 前	所 属
会議庶務	瀧 泉	静岡市立静岡看護専門学校 副校長
〃	吉田 多加貢	〃 事務長
〃	松永 貴子	〃 教務長
〃	矢野 玲枝	〃 技監（実習調整）
〃	宮田 芳衣	〃 技監（学年統括）

* 書記 山口 祥多

座 席 表



自己点検・自己評価 報告書

平成 15 年 7 月 25 日 看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会 報告書

「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」準拠

2024(令和 6)年 4 月 1 日 現在

静岡市立静岡看護専門学校

2024(令和 6)年 3 月 31 日 作成

I 教育理念・教育目的

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1	③ 2 1	設置目的は、静岡市内の看護職者の質の向上と充足である。関連する法律を遵守し、指定規則改訂の趣旨を踏まえ、地域包括ケアシステムの更なる推進を図る人材の養成となるよう、教育理念・教育目的を明示している。
	2	③ 2 1	教育理念・教育目的は法との整合性がある。
2	1	③ 2 1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。
	2	③ 2 1	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。
3	1	③ 2 1	教育理念・教育目的は、看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。
	2	③ 2 1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。
	3	③ 2 1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。
4	1	③ 2 1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。
	2	③ 2 1	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。
5	1	③ 2 1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点において持つべき資質を明示している。
	2	③ 2 1	卒業時点に持つべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。
* 改善点 ・入学生（特に現役高校生）の特徴を踏まえた学生観について		<ul style="list-style-type: none"> * 改善へ向けての検討 <ul style="list-style-type: none"> ・高校のキャリアグラム改正によって見られる変化を踏まえた学生観になっているか検討する必要がある。 ・教育理念、教育目的と学生の多様性をどのように運動させるか検討する必要がある。 	
		<ul style="list-style-type: none"> * 具体的計画案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校訪問における高校教員からの情報収集と共有 ・ 通年で行うキャリアグラム評価において、学生の多様性を活かした教育活動になっているか継続的に点検していく。 	

II 教育目標

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性がある。	③ 2 1	本校では令和3年度から、ディプロマポリシーを教育目標に置き換え明示している。年度当初の履修ガイダンスで、卒業時の目指す姿として学生に説明し、共有を図っている。
	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	③ 2 1	
2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	③ 2 1	ディプロマポリシーは、点検項目 1. 2-1、2-2 となることを意図して設定されたものになっている。
	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	③ 2 1	
3	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	③ 2 1	看護基礎教育と継続教育との一貫性を保証するためには、看護基礎教育終了時に獲得していないなければならない能力を明確に示す必要がある。「ディプロマポリシー」を教育目標に相当するものとして明示し、そこに向かって段階的な目標が持てるよう、学年別到達目標を別に設定している。教員が授業を構築する過程において、学習目標の設定や教育内容の精選において「ディプロマポリシー」 学年別到達目標を意識することができている。明示された3つの方針をもとに、学生が卒業時の到達目標を意識しながら学習できるように支援している。
	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	③ 2 1	
4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	③ 2 1	
	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	③ 2 1	
* 改善点 看護基礎教育と卒業後のキャリア形成の関連について	* 改善へ向けての検討 在学中に身につけた能力が、専門職としてのキャリアの一つであることを、学生が意識できるような支援を検討する必要がある。		* 具体的計画案 カリキュラム評価を行いながら、学習内容と到達目標の整合性の点検を継続して行う。 3年次特に後期の学習支援において、自己の看護観、卒業後のビジョン、社会から期待される姿を具体的に表現できるよう授業方略を検討する。 「臨床と学校の連携を考える会議」において、卒業教育の状況や、基礎教育、臨床の現状について情報共有を図り、連携の方法を検討する。

Ⅲ 教育課程経営(1)

< 教育課程経営者の活動 >

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	③ 2 1	教職員は教授・学習・評価課程(授業)において、授業評価を実施し、教務会議においては、全員でカリキュラム評価を実施している。令和4年度から新カリキュラムが始まり、教育理念・教育目標を意識しながら評価し、新たな課題を見出している。
2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	③ 2 1	
* 改善点 なし			* 具体的計画案 なし

< 教育課程編成の考え方とその具体的な構成 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	③ 2 1	ナイチンゲール看護論を基盤に、人の見方や健康の見方、疾病のつめ方など看護に必要な力が身につくよう教育課程を編成している。また、年次別到達目標を意識し、看護実践力が身につくよう科目間の順序性を考え編成している。 教育課程編成会議を年2回行い、外部委員に意見をいただき評価・修正をしている。
2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	③ 2 1	
3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	③ 2 1	
* 改善点 なし			* 具体的計画案 なし

Ⅲ 教育課程経営(2)

< 科目, 単元構成 >

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1	③	改正カリキュラムを構築するにあたり、教育理念、教育目的、教育目標、ディプロマポリシーを明確にした。その考えによって、カリキュラムを構築している。 特に、ナイチンゲール看護論を基盤とした科目や単元の構成は、本校の特徴をあらわしている。また、地域・在宅看護論の科目構成は、静岡看護の位置する駿河共生地区や静岡市の地域特性を活かした科目構成になっており、学校の独自性があらわれている。
	2	③	
	3	③	
2	1	③	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。
	2	③	
* 改善点 なし			* 具体的計画案 なし

< 教育計画 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1	③	改正カリキュラムは、3年間、3045時間106単位で構成されている。各科目は、履修の配列、順序性を重要視して計画されている。その内容を、講義要綱で示し、履修ガイダンスで説明している。学生は、年度の教育計画を理解し、各自履修登録を行っている。
	2	③	
2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	③	
* 改善点 なし			* 具体的計画案 なし

Ⅲ 教育課程経営(3)

< 教育課程評価の体系 >

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1	③ 2 1	本校が設定している全科目について、評価時期、評価基準等明確に設定されている。
	2	③ 2 1	
2	1	③ 2 1	大学の高等教育機関における履修単位の互換が認められる規程がある。R5年度は9名の学生が申請している。
	2	③ 2 1	臨地実習が終了した時、及び講義・演習科目は年度末にカリキュラム評価を行っている。 教育課程編成会議を年間2回、学校関係者評会議を年間1回計画通り開催した。
3	1	③ 2 1	学生から受ける授業評価、臨地実習指導評価については匿名性を担保し運用している。結果は、開示している。
	2	③ 2 1	
* 改善点 なし			* 具体的計画案 なし

< 教員の教育・研究活動の充実 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1	③ 2 1	年度当初に、教員の力量に合わせ、専門性が発揮できるような担当科目と時間数を配分している。学校と臨地実習場が離れていることから、時間的なロスが生まれている。そのため、学内で授業準備をしたり学生指導する時間が十分にとれず、教員が教育活動のため、教務事務の勤務時間を長くすることで、教員が教育活動に集中できるようになった。また、中町実習控室のWi-Fi環境を整えることで、会議や打ち合わせを遠隔で行えるようになり、一部の時間的なロスは解消した。
	2	③ 2 1	校内のWi-Fi環境を整ったことで、Webでの学習会や研修に参加しやすくなった。Web研修会の企画も増えており、教員各々が関心のある研修会に参加できている。複数名で同時参加できるWeb研修も多く、研修後の伝達講習の時間の削減になった。
2	1	③ 2 1	
	2	③ 2 1	
* 改善点 臨地実習指導、学年担当業務、講義・演習時間など 教員の負担が大きい			* 具体的計画案 実習指導体制や方法の検討 教務事務の業務の見直し

Ⅲ 教育課程経営(4)

< 学生の看護実践体験の保障 >

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点検項目		点検	評価内容
1	1	③ 2 1	各実習施設での実習に際して、教育理念・教育目的に基づき実習目標や実習方法、指導方略について打ち合わせを行った。特に新設科目の地域・在宅看護論実習Ⅰと実習のねらいを大きく変更した成人看護学実習ⅠⅡについては、意図が伝わるよう丁寧に説明し、指導体制や物品の整備等について、その都度実習施設と調整している。学生が体験や思考を整理する場所も確保でき、効果的な学習ができている。実習評価アンケートのコメントにも、「受け入れてくれる雰囲気があった」とあり、教育理念、目的、目標を理解したうえで支援体制を整えられていたと評価できている。R6年度新カリキュラムとなる発展看護実習について、本校の卒業時の到達レベルと実習施設での新人の状況等について相互に情報共有したうえで、基礎教育でおさえられるレベルを検討しながら実習内容を構築した。
	2	③ 2 1	臨地実習施設は、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。
2	1	③ 2 1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。
	2	③ 2 1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。
	3	③ 2 1	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。
3	1	③ 2 1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。
	2	③ 2 1	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。
4	1	③ 2 1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。
	2	③ 2 1	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。
* 改善点			
・R6年度新カリキュラムでの発展看護実習の運用と技術ノートの活用			<ul style="list-style-type: none"> * 具体的計画案 ・実習指導要綱の作成 ・スタッフへの周知の依頼と現場での連絡調整の実施

IV 教授・学習・評価過程(1)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

< 授業内容と教育課程との一貫性・看護学としての妥当性・授業内容間の関連と発展 >

点検項目	点検項目	点検	評価内容
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	③ 2 1	新カリキュラム2年目となり、1年次開講科目は昨年度の評価から修正して実施している。2年次開講科目では、科目間の関連性や学ぶ順序性を考慮し、教育内容がより筋の通ったものとなっている。
2	1 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。 2 授業内容のまとまりの考え方は、科目標との整合性をもっている。	③ 2 1 ③ 2 2	専任教員間のみならず、関連科目となる専門分野・専門基礎分野の講師ともどのように関連するのか、どのようにおさえているのかを把握するように対話している。
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	③ 2 1	カリキュラム評価をおこなうことで、教育内容の整理・科目間のつながりを意識している。
4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	③ 2 1	看護師国家試験終了後、問題の分析を教員全員で行い、学習内容の不足がないか確認、教授内容の修正を図っている。
* 改善点	* 改善へ向けての検討		* 具体的計画面案
学校便覧・シラバス・実習要項の見直し・修正			学年末アンケート・卒業時アンケートの分析

< 授業の展開過程 >

点検項目	点検項目	点検	評価内容
1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	③ 2 1	教員は、ICTを活用した学生への連絡・課題提示・課題提出など新たな試みを行っているがさらなる発展を次年度は目指す。
2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	③ 2 1	基礎分野・専門基礎分野・専門分野など科目や分野にかかわらず、教授内容のつながりを意識して授業展開をおこなっている。しかし、課題が山積する時期もあるため、教員間の連携・調整は必要である。また、学内教員が行っている演習科目等は、複数の教員で必要時にサポートする体制を整えている。また、主に演習では限られた環境・効果的な教授方法を吟味し、少人数制の演習も取り入れている。学生自身が学内で体験した技術の習得度を確認できるように技術ノートを活用を始めている。授業時間外の練習で教員がアドバイスをするなどの介入する機会を設けて支援している。また、ハイブリッドシミュレータ(SCENARIO)を導入し、臨床判断能力を養うよう授業のなかでもシミュレーションを取り入れ始めている。実習室にシミュレータースペースを確保し、ハイブリッドシミュレーターを配置し授業時間外でも自己学習ができるような環境を整えている。
3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	③ 2 1	学生からの年度末アンケートでは、「レジュメがわかりやすい」という評価もあり、授業後の振り返りにも活かしている。
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	③ 2 1	
* 改善点	* 改善へ向けての検討		* 具体的計画面案
ICTのさらなる活用とペーパーレス化の促進 多重課題による学生の負担感を軽減する シミュレーターへの活用 学生の技術修得状況の把握(技術ノートの活用)			・学内教員の授業資料の一部をGoogle Classroomで配信してみても学生の意向を聞く ・外部講師には、配信の有無を確認する ・外部講師には、R7年度に向けて資料配信許諾の準備をする ・課題内容を共有し、方法・時間割の調整 ・シミュレーターへの勉強会に参加し共有をはかる ・全ての演習科目で実施した技術を確認する

IV 教授・学習・評価過程(2)

<目標達成の評価とフィードバック>

点	検	項目	点	検	評価内容
1	③	1	2	1	開講時には、評価方法・評価基準を明示している。提出物やリアクションシートなどを用いて形成的評価をおこなわないが授業で補足説明などをしている。終了試験は、筆記試験のみならずルーブリック・レポートなど様々な評価方法を取り入れている。また、教員評価のみならず、学生間の他者評価も取り入れている。必要に応じて、個別に評価を返却し、学生自身が課題をわかるようにしている。年度末にはカリキュラム評価をおこない、各科目・領域において授業の妥当性および改善点を見出している。実習評定は、臨床実習指導者と共に検討し客観性を担保している。GPAは提示しているものの、活用しているかは不明である。学生がGPAを確認し、学習への取り組みを質的に把握できるようにGPAの総合評価(数値の目安を新たに作成し、可視化することが必要と思われる。
		2			
3	③	1	2	1	単位未取得となる学生が数名みられる結果となった。単位未修得学生 GPA
		2			
* 改善点		* 具体的計画案			
学習意欲を高めるためにGPAを活用できるように		GPAの数値の意味が学生・保護者ともにもわかるように本校の評価指標を検討し作成、明示していく			

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

<学習への動機づけと支援>

点	検	項目	点	検	評価内容
1	③	1	2	1	教育理念・教育目的に基づき学習目標やねらい、内容使用テキストや参考テキストなどを提示している。また、実習では実習要項以外にオリエンテーションをおこない、興味・関心を高め、学習への動機づけを行っている。授業評価アンケートの回答率を向上させるために、学内教員が複数人で担当する科目は、科目として1つにまとめておこなうことに変更した。昨年度に比べて回答率は上昇したものの、学年が上がるにつれて回収率は下がることが明確となった。(1年生100%>63%、2年生76%>39%、3年生63%>24%)回答率が低値であると正確な評価ができないため、次年度はさらに改善が必要である。
		2			
1	③	1	2	1	授業評価アンケートより、1年次生は「授業の学習目標や学習内容は明確であった」の項目はおおよそ4.8以上であったのに対し、2・3年次生は4.0~4.7とやや低値となっている。高学年になるにつれて、提示が抽象的となりやすいため、または教員の説明方法も丁寧さに欠けるのかもしれない。また、「意欲的に取り組んだ」項目は、1年次生は4.7以上であったのに対し、2年次生は4.5~4.7、3年次生は4.3~4.6とさらに低値となる。領域による得意・不得意がはつきりしてくることや、多重課題のために意欲が点在しがちとなるのかもしれない。評価の平均点は必ずしも悪くはないものの、学年がすすむごとに低値になりやすいことを教員は意識し、効果的な動機づけの支援ができるようにしていく。
		2			
* 改善点		* 具体的計画案			
学年のレディネスに合った説明・指導の強化		授業評価アンケートの内容の修正・分析および学生回答方法の	会議にて周知し、改善点を次年度に活かす		
授業評価アンケートの回答率の向上		分析結果の周知	新教育課程開発での授業評価アンケートの内容修正		
		授業評価アンケートの回収率を向上するために回答時間の確保	授業評価アンケートの回収率を向上するための回答時間の確保		

V 経営・管理過程 (1)

< 設置者の意思・指針 >

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	③ 2 1	<p>本校は静岡市保健福祉長寿局一保健衛生医療部に組織されており、地域医療に貢献する看護師養成を目的とする学校である。地域医療に貢献することでは、本校は設立の歴史的経緯及び立地から、静岡病院を始めとする市内の公的病院に人材を多く輩出し続けている。</p> <p>R4年度導入の改正カリキュラムでは、静岡市が目指す「誰もが住み慣れた地域で、いつまでも健康で暮らし活躍できるまち」を作ることに関与できる人材養成となるよう意識した。急性期医療に留まらない広く地域のニーズに応える看護師を養成するよう、駿河共生地区に設置されている利点を活かした、教育内容を組み込んだ。</p> <p>年度当初、本校の使命と事業目的を確認し、運営方針を示し年度の重点課題を教職員全体で一致させている。</p> <p>人事評価システムで、管理者が組織目標を示し、それをもとに職員各々が自己の目標を設定している。方向性は一致できている。設置者には、主要事業概要説明、入学選抜委員会、看護専門学校あり方検討会などを通して、管理者としての考え方に対する理解を得ている。</p>
2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	③ 2 1	
3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	③ 2 1	
4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	③ 2 1	
5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	③ 2 1	
6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	③ 2 1	
* 改善点 なし	<p>* 改善へ向けての検討 なし</p>		<p>* 具体的計画案 組織重点目標の共有 目標設定時面談における、設置者、管理者、教職員の認識の一致</p>

V 経営・管理過程 (2)

< 組織体制 >

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	3 2 1	学校長は独法化した静岡病院の院長と兼務である。経営、管理に関して権限が委譲され、意思決定システムや相互の役割分担等、円滑に機能している。看護師養成機関としての使命、学校長の方針等において決定されたこと等は、速やかに周知させている。
	意思決定システムが明確になっている。	3 2 1	年度当初、組織目標と職務分掌を明記した文書を提示している。教職員それぞれの意思や考えは、職員会議、教務会議等で反映され、決定事項が周知できるように整っている。
	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3 2 1	看護師養成に最も適切と思われる教職員の組織であるために、必要かつ十分な教職員の確保が必要である。人員数においては退職者、異動希望者の補充は年度ごとに行われ定数を満たし運営している。
	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3 2 1	今後の教員の定年退職を見越し、複数年の人員管理計画に基づき教員の採用、研修会の受講を行っている。R5年度と6年度の計画で、教務主任養成講習会を1名が受講している。その他、日本看護学校協議会が始めた「看護教員インターンシップ」の受入れに参加し、1名を受け入れた。看護教育に興味を持つ人を勧誘する有効な機会と考えている。
2	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3 2 1	教員はキャリア別に設定した目標達成に向け、年度毎のビジョンとゴールを設定し、教育活動に取り組んでいる。
	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3 2 1	組織目標達成に向け、定期的な人事評価面接を行い、管理者と教員で状況の共有をはかっている。 R5年度からは教務事務(会計年度任用職員)の勤務時間を、週15時間から週30時間勤務に拡充したことで、教務事務への業務委託により業務改善ができた。 今後、実習指導教員の導入に向けた検討が必要である。
* 改善点 教務組織の安定した教育力の維持			* 具体的計画案 関連病院からの出向職員の任期延長に向けた交渉 人事評価面接における次年度の異動希望の把握 教務事務依頼業務を整理する 実習指導教員導入に向けた情報収集と課題の明確化 看護教員インターンシップの受け入れ

V 経営・管理過程 (3)

< 財政基盤 >

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	③ 2 1	教職員は、学校運営が市の財政基盤により成り立っていることについて理解することが必要であるため、職員会議を通し、本市の予算編成の考え方や予算執行状況等の情報を定期的に事務職員と共有を行い、効率的な予算執行の理解を深めた。また、厳しい財政基盤の中で、教務の立場からの意見、要望を具体的に予算等に反映できるよう、事務職員と連携を取りながら教職員自ら資料作成や情報収集を行った。
	2 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	③ 2 1	
2	1 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できようになっている。	③ 2 1	令和5年度の予算執行及び令和6年度当初予算編成では、維持管理経費のみならず、教員の質向上のための研修に係る経費や教育環境をより充実させるための備品購入経費等、必要額を確保した。
	2 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できようになっている。	③ 2 1	
* 改善点 なし			* 具体的計画案 今後、市の財政状況や方針等を職員間で共有するとともに、予算作成過程での教職員の参画を促進し、学習・教育の質の維持・向上につなげていく。

< 施設設備の整備 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	③ 2 1	R2年度よりWiFi設備をに設置して、分散授業のための環境を整えようとにも電子テキスト導入にも活用している。R5年度は、モバイルルーターと集音機を購入し、中町実習控室とのオンラインによる打合せ等ができる体制を整えた。 ・照明器具の計画的修繕として、R5年度は、1階の廊下、図書室、更衣室、トイレの照明器具をLEDに改修した。 ・医療現場に近く効果的な演習を実施することができるよう、R5年度は、装着型産褥子宮モデル1台、車椅子3台を購入した。また、実習への移動の職員の負担を軽減するため、電動自転車1台を導入した。 ・点検で指摘のあった防火シャッターの開閉装置の故障を速やかに修繕し、安全確保に努めた。
	2 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	③ 2 1	
2	1 看護の専門教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	3 ② 1	
	2 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	③ 2 1	
3	1 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとつての福利厚生施設設備の整備を検討している。	③ 2 1	
	2 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	③ 2 1	
* 改善点 竣工30年を経過し、経年劣化が顕著化している			* 具体的計画案 市の総合計画上の予算要求は認められなかったが、引き続き

設備・備品更新等への対応 | ていく。

V 経営・管理過程 (4)
 < 学生生活の支援 >

と、中規模程度の改修の要を打ついで。

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点	検	検	項	目	点	検	評	価	内	容	
1	3	2	1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3	2	1	奨学金等の経済的支援体制、学校カウンセラーの配置等による健康相談を受ける体制は整っている。性の多様性に対する学校の考え方を明文化し、支援体制を整えた。キャリアボードの活用や静看カフェで卒業生との交流機会をつくるなど進路選択に関する情報を提供している。			
				学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。				3	2	1	通年で、学生の意見を反映できるよう意見箱を設置した。今年度は意見箱への意見投書は1件であった。速やかに検討し、その内容を公表した。その他、授業評価やアンケート調査など、学生が意見を述べる場を随時提供している。
				支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。				3	2	1	ハラスメントの防止に関するガイドラインを作成し、学生及び教職員に周知した。性の多様性への配慮として、更衣室にカーテンで仕切られた個別スペースを設置した。また、ジェンダーフリーの学生ユニホームについて検討を試みた。しかし、結論が出ない状態のため次年度に引き続き検討していく。
* 改善点		性の多様性を尊重していくための具体的な支援体制の整備		* 改善へ向けての検討		性のある学生に尊重されるべきことである。学生・教職員の理解を深め、安心して学習できる環境を具体的に整備していく。		* 具体的計画案 ・学生への支援体制の周知 ・令和7年度に向けた、学生ユニホームの検討			

< 養成所に関する情報提供 >

点	検	検	項	目	点	検	評	価	内	容
1	3	2	1	教育・学習活動に関する情報提供(関係者(保護者等))に行っている。	3	2	1	入学式では父母等への教育方針の説明、協力、支援の依頼を行っている。学生個々の個別な問題には、教員間の連携を図り、タイムリーに本人・父母等に対応、支援している。また、入学式の後には父母等を対象に校内案内及び説明の機会を設け、理解を深めていただいた。		
				関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることになっている。				3	2	1
2	3	2	1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	3	2	1	学内行事に合わせ、ホームページを随時更新し、迅速な情報発信を心がけている。必要に応じ報道提供もしている。ホームページは市の統一されたフォーマットの制限はあるが、トップページを独自に作成し、閲覧者が見やすいものになるよう改善している。受験者に本校の魅力が分かりやすく伝わるよう学校案内を作成し、配布した。R5年度は、オープンキャンパスに保護者にも参加をしてもらい、見学祭では昨年に続き一般公開して多くの市民の方に本校の存在をアピールすることができた。		
				広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。				3	2	1
* 改善点		ホームページの情報を常に最新の状態にする。		* 改善へ向けての検討		ホームページの写真を撮影用に一眼レフカメラを購入した。インパ		* 具体的計画案 ホームページの写真を撮影用に一眼レフカメラを購入した。インパ		

ソフトの写真を活用し、子供たちの姿を写し、子供たちの成長を促している。また、子どもから素材となる写真を提供してもらい、静看生の日常コーナーを作っていく。

V 経営・管理過程 (5)

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

< 養成所の運営計画と将来構想 >

点	検	項	目	点	検	評	価	内	容
1	1		養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3	②	1		令和4年度導入の新カリキュラムは、静岡市が目指すまちづくりを踏まえ、駿河共生地区に設置されている利点を活かす教育内容をとり入れた。学校の独自性を出すことで、地域における本校の存在価値を示すことにつながっている。	
	2		その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3	②	1		看護師養成所の将来構想については、本校、清水校、保健衛生医療課の3者での検討会を開催し、少子化問題など社会状況の変化を見据えた今後の需給状況等について意見交換を行った。	
* 改善点 ・ 将来構想についての検討						* 具体的計画案 ・ 新カリキュラムの計画的実施とその評価 ・ 静岡市看護専門学校のある方について、関係部署で引き続き検討会議を実施し、局として方針を決めていく。			

< 自己点検・自己評価体制 >

点	検	項	目	点	検	評	価	内	容
1	1		自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	③	2	1		常に改善に向けて自分達のことの評価しているという意識は職員に根付いている。	
	2		実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法も明確にもっている。	③	2	1		自己点検・自己評価委員会も定期的に開催されており、評価結果より改善されている点が多い。	
2	1		自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	③	2	1		教育活動に反映させている。	
	2		自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	③	2	1		自己点検・自己評価活動の結果は、年報にて公表している。	
	3		自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	③	2	1		また、学校関係者評価会議を4月に開催し、外部委員の評価を受けている。結果は学校ホームページにて公表している。	
* 改善点 なし						* 具体的計画案 なし			



VI 入学

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	③ 2 1	アドミッションポリシーは教育理念・教育目的との一貫性を保つものになっている。募集要項・ホームページ・学校説明会等で入学希望者に明示し、入学者選抜の考え方を示している。 令和5年度実施入試は、推薦・一般入試ともに受験者が約30%減少した。一般入試合格者の辞退率は依然高いが定員数は確保できた。 選抜方法に社会人入試は導入していないが、定員の約1割程度が社会人入学生である。社会人経験を活かし学生相互の学びに良い影響を与えているため、選抜方法は妥当と考える。 入学者の推移は、退学者が減少し、卒業率は90%以上を維持している。しかし昨年に引き続き、単位未修得のまま進級した学生がいる。低学年での学力低下が懸念される。1年終了時のGPA平均値は2.845(R4年度生比0.04低下)だった。今後の推移を注視し、結果により選抜方法の妥当性の検証を行う。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	③ 2 1	入学希望者の開拓は、対面式の学校説明会の開催、動画やiPadを使った説明会での工夫、看学祭など、入学希望者の興味関心を高める工夫を積極的に取り入れ実施している。学生募集活動に関して、全職員で検討会を実施した。受験生の動向や背景を把握、分析し職員間で情報共有しながら、入学希望者の開拓に継続して取り組む必要がある。 令和5年度 在籍学生異動状況 1年生 40名 進級38名 原級留置1名 退学1名 2年生 42名 進級40名 原級留置2名 3年生 38名 卒業38名
* 改善点	アドミッションポリシーに沿った人材の選抜		
	改善へ向けての検討 ・入学後の成績状況、入学者の異動状況の分析結果から、入学試験実施要領、選考基準の妥当性の検討 ・入学者選抜時点で、評価観点に基づく適性の見極めができるよう面接スキル向上の検討 ・推薦入試、一般入試の受験者数増加につながる募集活動の検討		* 具体的計画案 ・R7年度生の特徴に関する情報収集 (高校の新カリ後の生徒の強みと弱みなど) ・面接官のスキル向上に向けた学習会の実施 ・学生募集活動の内容評価と修正

Ⅶ 卒業・就業・進学

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	③ 2 1	令和5年度の卒業生は38名で、卒業率は、令和2年度生:97.5%、令和3年度生:97.3%である。看護師国家試験の合格率は15年連続100%であり、卒業時の教育水準は維持できている。国家試験問題の分析を行い、教授活動の点検と対策を検討している。年度末と卒業時にアンケートを実施し、各学年の目標や卒業時の到達などを評価している。また、各学年でポートフォリオの共有会を実施している。学生はお互いの成長を感じている。教員の成長を確認できた。新カリキュラムでは、71項目の技術の卒業時の到達度が定められている。看護技術ノートを改訂し、演習や実習で活用しているが、活用状況や卒業時の到達について分析する必要がある。
	卒業生の就業・進学状況を分析している。	③ 2 1	
	卒業生の就業・進学状況を分析している。	③ 2 1	
2	卒業生の就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	③ 2 1	令和5年度(令和6年3月)卒業生38名のうち、就職者は37名で、静岡市内の病院に、35名が就職している。(91.9%前年比2.8%減)進学者は1名である。(静岡医療科学専門学校助産学科)静岡病院への就職者は29名(78.4%前年比17.4%増)である。静岡市内への就職者は昨年に比べ若干減少し、静岡病院への就職者は8割弱で昨年よりも増加した。入職後に就職先とのマッチングに不都合がないよう、本人の意思を確認しながらも、就職先に関する情報収集などについて助言し、効果的に就職活動ができるよう支援している。卒業生の多くが就職する、主たる実習病院と定期的に「学校と病院の連携を考える会」を開催している。卒業生が就職している病院から、卒業生の動向だけでなく新人全体の様子や新人教育の現状などの情報を得て、カリキュラムに活かせることはないか検討している。卒業生対象の座談会「静看Café」は、今年度も開催でき、卒業の様子を知る機会になっている。開催日を固定し、助産学科を目指す在校生も参加し、参加の意義を高めるものになっている。
	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	③ 2 1	
3	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	③ 2 1	令和5年度(令和6年3月)卒業生38名のうち、就職者は37名で、静岡市内の病院に、35名が就職している。(91.9%前年比2.8%減)進学者は1名である。(静岡医療科学専門学校助産学科)静岡病院への就職者は29名(78.4%前年比17.4%増)である。静岡市内への就職者は昨年に比べ若干減少し、静岡病院への就職者は8割弱で昨年よりも増加した。入職後に就職先とのマッチングに不都合がないよう、本人の意思を確認しながらも、就職先に関する情報収集などについて助言し、効果的に就職活動ができるよう支援している。卒業生の多くが就職する、主たる実習病院と定期的に「学校と病院の連携を考える会」を開催している。卒業生が就職している病院から、卒業生の動向だけでなく新人全体の様子や新人教育の現状などの情報を得て、カリキュラムに活かせることはないか検討している。卒業生対象の座談会「静看Café」は、今年度も開催でき、卒業の様子を知る機会になっている。開催日を固定し、助産学科を目指す在校生も参加し、参加の意義を高めるものになっている。
	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	3 ② 1	
4	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的・教育目標・授業の展開に活用している。	3 ② 1	令和5年度(令和6年3月)卒業生38名のうち、就職者は37名で、静岡市内の病院に、35名が就職している。(91.9%前年比2.8%減)進学者は1名である。(静岡医療科学専門学校助産学科)静岡病院への就職者は29名(78.4%前年比17.4%増)である。静岡市内への就職者は昨年に比べ若干減少し、静岡病院への就職者は8割弱で昨年よりも増加した。入職後に就職先とのマッチングに不都合がないよう、本人の意思を確認しながらも、就職先に関する情報収集などについて助言し、効果的に就職活動ができるよう支援している。卒業生の多くが就職する、主たる実習病院と定期的に「学校と病院の連携を考える会」を開催している。卒業生が就職している病院から、卒業生の動向だけでなく新人全体の様子や新人教育の現状などの情報を得て、カリキュラムに活かせることはないか検討している。卒業生対象の座談会「静看Café」は、今年度も開催でき、卒業の様子を知る機会になっている。開催日を固定し、助産学科を目指す在校生も参加し、参加の意義を高めるものになっている。
	改善点		
* 改善点			* 具体的計画案
卒業1年目の卒業生を対象にしたWebアンケート調査の回収率の改善。			<ul style="list-style-type: none"> Home coming dayを8月の後半に固定することで、在校時からPRする。また、在校生の参加を呼びかけ、キャリア支援の機会とする。 卒業生へアンケートの回収率を高めるため、QRコードの利用など検討する。

Ⅷ 地域社会／国際交流(1)

< 地域社会 >

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1	③ 2 1	<p>改正カリキュラムでは、地域・在宅看護論が1年次から配置され、地域やそこで暮らしている人々を知る演習もはじまった。2年次の地域・在宅看護論実習Ⅰでは、S型デイサービスや障がい児者施設などで実習し、地域の人々の健康な暮らし、望む暮らしについて学んでいる。地域の人々に看学祭をPRすることで、学生の学びを表現したり、触れ合う機会となった。</p> <p>学校周辺地区で行われたトロペーWeek2023の参加や南部小学校の児童の学校訪問への対応など地域のニーズに応えながら、地域社会に貢献できるよう活動した。特に、トロペーWeekで行ったフードドライブに参加し、社会的な問題にも目を向ける機会を得た。</p> <p>ボランティア活動は、適宜学生に参加を呼びかけ、静岡MAT-L隊員養成研修の模擬患者、静岡マラソン2024、静岡まつりに参加することができた。</p>
	2	③ 2 1	
2	1	③ 2 1	
	2	③ 2 1	
3	1	③ 2 1	
	2	③ 2 1	
* 改善点			<p>* 具体的計画案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護論の科目を活かして、地域の人々のニーズを把握する。 ・看学祭の実施など地域との交流の機会をつくる。 ・トロペーWeek2024への参加。
* 改善点			<p>* 改善へ向けての検討</p>

Ⅷ 地域社会／国際交流(2)

< 国際交流 >

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	3 (2) 1	令和6年度から開講する、災害看護・国際看護・国際看護の内容等について、担当者間で検討している。 国際的な視野について、1年次の「地域と暮らしを知る演習Ⅰ・Ⅱ」で、外国人に対する視点をもち学習を進めている。 今年度の1年次生には、中国出身の学生が在籍している。 両立して積極的に学習や生活をしており、周囲の学生に良い影響をもたらしている。普段の学生生活の中でも自然と様々な価値観に触れる場になっている。当該学生に対して、ガイダンスなどで理解度を確認しながら進めたことで、問題なく学習を継続できている。外国人留学生などの受け入れに関する個別審査基準は整っているため、看護師を志望し、本校の受験を考えている学生に対しては、今後も学校説明会等で個別相談に応じ、支援できるようにしていく。 海外留学や海外での活動を希望する学生に対して情報誌等の配架を行っている。 R5年度は、在校生や卒業生からの、留学等に関する希望や相談はなかった。卒業生が留学など希望する場合には、書類を作成について対応する準備がある。
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	3 (2) 1	
3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	3 (2) 1	
4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	(3) 2 1	
* 改善点	国際看護の教授と評価		
	* 改善へ向けての検討 新カリの「災害看護・国際看護」の評価		* 具体的計画案 日本と諸外国との関連について、幅広く関連させて考えられるよう、一つの科目内で影響し合う状況を大切に教授する。初年度であり、構築や実際の授業の様子、学生の反応などを評価し改善していく。

Ⅹ 研究

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	3 (2) 1	研究活動の保障としては不十分である。特に時間の確保が整っていない。そのため研究活動を手掛けるまでに至らない。 「静岡県立看護専門学校倫理審査委員会」は設置されており、教職員、学生が行う研究において倫理審査を行う体制は整っている。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	(3) 2 1	研究活動には至っていないが、自主参加による学習会において、自己の指導事例の検討を行うなど、教育活動の質向上につながっている。また、学会・研修会への主体的参加により、視野の広がり、専門性の向上につながっている。
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	(3) 2 1	
* 改善点	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員が研究活動に取り組める環境の整備 		<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画案 自施設内での教授活動評価に留めず、他専門学校との交流の場を活用し、他者評価を受ける。指導事例の検討により教授活動の分析や問題解決能力を高め、研究的姿勢を高めていく。 授業研究に取り組み、教育活動の質の向上につなげる。 教務事務に委譲できる業務整理を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 改善へ向けての検討 日常の教育活動を通して教員自らが研究的姿勢を涵養していけるよう支援する。 研究的関心と研究的姿勢を高め、時間を作り出すための業務整理を検討する。 		